情報　No.３

平成２９年１２月
愛教研専門局栄養教員部
担当　佐藤　有香

第３８回公立小中学校栄養教諭・学校栄養職員研究大会実施報告

平成 29 年 10 月 24 日（火）、第 38 回公立小中学校栄養教諭・学校栄養職員研究大会が、エスポワール愛媛文教会館にて開催された。午前中は、四国中央市栄養教員部の研究発表及び研究協議を行い、愛媛県教育委員会保健体育課　指導主事　来嶋理恵先生より指導講話をいただいた。午後からは、東京大学大学院　医学系研究科 社会予防疫学分野　教授 佐々木敏先生より「なぜ食育は大切なのか？～生涯健康・疾病予防の視点から考える～」と題して、ご講演いただいた。

１　研究発表および研究協議

「栄養教諭が養護教諭と連携し、
個別指導を推進していくための取組」
～つながる・ひろがる・ふかめる
個別指導の展開～
発表者　　四国中央市栄養教員部

詳細に現状と課題を把握したうえで研究テーマを設定し、栄養教諭を中心に養護教諭と連携した実践例を発表していただいた。日々の取組を重ねることで、児童の中に自然と食に対する意識が芽生え、保護者にも伝わり、行動変容にまでつながっていた。

また、栄養教諭が在籍しない学校においても、養護教諭と連携し､継続した健康相談を実施することができていた。研究協議では、児童・保護者の変容や今後の取組について質問が出され、有意義な協議が行われた。

２　指導講話

「食に関する指導の進め方」
講　師　　愛媛県教育委員会　　保健体育課　　指導主事　来嶋　理恵　先生

平成２９年３月に文部科学省から出された「栄養教諭を中核としたこれからの学校の食育」を、栄養教諭・学校栄養職員は活動指針として活用するようご指導いただいた。

「栄養教諭を中核としたこれからの学校の食育」のポイント

カリキュラムマネジメントの概念でもある
ＰＤＣＡサイクルに基づいた食育を推進する

一連の取組を「計画」「実践」「評価」「改善」で明記している。

計画　**①推進体制の整備　②実態把握**
③計画の作成　　④連絡・調整

既存の組織やアンケートを活用し、体制整備を図ったり実態を把握したりするとよい。目標（児童生徒の目指す姿）と現状（児童生徒の実態）の差を埋めるための指導計画を作成することが大切である。

実践　**食に関する指導と給食管理**

食に関する指導の内容として、冊子の初めに給食時間における食に関する指導が明記されている。日々の給食の時間を大切にしてほしい。給食管理については、栄養教諭の職務を管理職や学級担任が読んで分かる程度になっている。

評価　**活動指標（アウトプット）と成果指標（アウトカム）からの評価**

評価の具体的事例が示されている。1つ程度でもかまわないので学校評価に食育の評価を入れていただけるとよい。

改善　**①食育推進体制 ②食育推進の取組内容 ③学校における食育の取組・成果の可視化**

評価結果を分析し、改善点の洗い出しを図り、指標を見直す。そして次年度の計画を改善する。ホームページや配布資料等を活用し、成果の可視化を図り、家庭や地域との連携を深める。

３　講　演

「なぜ食育は大切なのか？　～生涯健康・疾病予防の視点から考える～　」

講　師　　東京大学大学院　医学系研究科　社会予防疫学分野
教　　授　　佐々木　敏　先生

「きちんとした研究を取り上げて、それを理論的に説明してあるものを材料として教育にあたってほしい。子どもたちの一生の健康は、皆さんの肩にかかっている。」とお話しいただいた。

◆　**流行には要注意**
−話は単純化され、盛ってある−

保護者から食べ方等について質問されたら、栄養教諭がきちんと説明できるか？研究論文を探し、「私は〇〇と思う」と言わず、事実のみを話すこと。流行に巻き込まれないようにするためには、科学的根拠に基づき、分かりやすく伝えること。

◆　**教育者こそ科学的に考えよう　　−科学的思考のできない先生は先生ではない−**

学問としての栄養学の正確な用語を理解し、正しく説明できるようにしてみよう。用語は正しく知った上で、発達段階に応じて教えていく。これを楽しいと思えたら、食の不思議や楽しさがどんどん広がっていく。

◆　**事実・根拠に基づく教育をしよう　　−地味だが、ぶれない正しいことを教えたい−**

講演をしたり、児童生徒に教えたりする場合は、研究をやっていない情報は排除しなければならない。ガイドライン・総説・専門書あるいは一般書といえるものが、知的生産物である。

４　参加者の感想より

〇　自己の資質の向上や改善につながる内容であった。
〇　分かりやすい内容で、他の教職員に情報提供できる内容であった。